

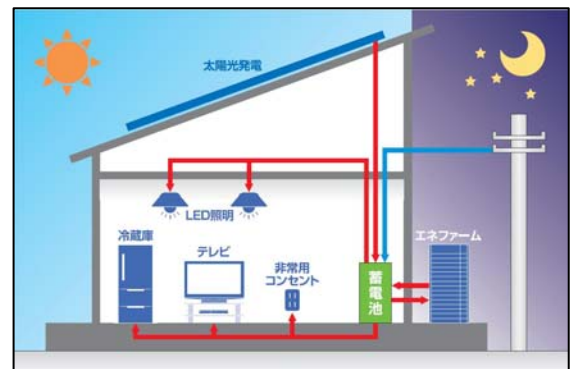
次世代住宅の緊急課題は“自立型蓄電住宅”  
普及型の「エネルギー・セキュリティー住宅」実用化への取り組み  
『太陽光発電・エネファーム・蓄電池を組み合わせた実証実験』開始

木造注文住宅を手がける株式会社アキュラホーム(本社:東京都新宿区、社長:宮沢俊哉)は、次世代住宅として注目を集める“自立型蓄電住宅”として低価格の「エネルギー・セキュリティー※1住宅」の発売に向けた開発に取り組んでいます。その第1弾として、早稲田大学初のベンチャー企業である株式会社早稲田環境研究所(本社:東京都新宿区、社長:中嶋崇史)の協力を得て、太陽光発電・エネファーム※2などの創エネ設備と蓄電池の最適な組み合わせを低コストで実現するための実証実験を開始しました。

東日本大震災以降、災害時や計画停電に備えた“自立型蓄電住宅”への消費者の関心は高まっています。当社で震災後に開催した「震災に備える暮らし方セミナー」でも、参加者から“自立型蓄電住宅”へのご質問を多数いただきました。ハウスメーカー各社や電機メーカーなどは相次いで太陽光発電と、電力を貯めて活用できる「蓄電池」を合わせた商品の研究開発や販売を進めています。しかし長時間の稼動には高額な大型蓄電池が必要となり、一般消費者への普及実現にはまだまだ時間がかかると考えられています。そこで当社では、早稲田環境研究所の協力を得て、太陽光発電とエネファームなどの家庭用燃料電池に、比較的容量が小さな蓄電池の組み合わせで、より低価格で効率的な一般家庭でも普及できるエネルギー・セキュリティー住宅の実用化を目指しています。

【実験概要】

- 目的 : 太陽光発電・エネファームなどの創エネ設備と、蓄電池の長所を引き出す接続構成を見直し、万が一のときでも安心して暮らせるエネルギー・セキュリティー住宅を検証する
- 実験方法 : 日中は太陽光発電と蓄電池、夜間はエネファームと蓄電池の組み合わせを中心に活用することで、家庭内で必要なLED照明、冷蔵庫、テレビといった家電に電力を供給する
- 実験地 : 埼玉県
- 実験主宰 : 株式会社アキュラホーム
- 実験協力 : 株式会社早稲田環境研究所



実証実験イメージ図

今後このシステムを搭載した住宅開発を積極的に行い、日本最大のホームビルダーネットワーク「ジャープネット」のスケールメリットを活かし、更なるコストダウン・効率化を図ってまいります。また、早稲田環境研究所と共同研究を進めている発電量や使用量が見える化するHEMS※3との組み合わせも併せて開発していく予定です。

※1 エネルギー・セキュリティー・・・エネルギー供給に関わる様々なリスクに対応して、供給安定化を図る対策  
※2 エネファーム・・・東京ガス、大阪ガス、新日本石油の登録商標です  
※3 HEMS・・・(Home Energy Management System)センサーやITの技術を活用して、住宅のエネルギー管理、「省エネ」を行うシステムを指す

<報道関係からのお問い合わせ>

株式会社アキュラホーム 広報課 堀越・若林 Email : horikosi@aqura.co.jp

住所 : 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル 34F TEL : 03-6302-5010 (直通) FAX : 03-5909-5560

●写真データは右記よりダウンロードすることができます。 <http://www.aqura.co.jp/news.html>